



令和三年如月

城北中だより

城北中学校教育目標	生徒数
○思いやりのある生徒	1年 157名
○真剣に学ぶ生徒	2年 176名
○健康な生徒	3年 156名
	特別支援学級 7名
	全校生徒数 496名

一言(ひとこと)

校長 玉崎 芳行

「あんた、なに、このゴム手袋」

中学1年の初夏、美術の授業、課題は“デッサン”だった。自分の左掌を、自分なりに一生懸命書きこんだ。自分なりの納得感を秘め、美術の先生に作品を差し出した。返ってきた言葉が、その一言だった。その先生の美術の時間は、それ以来、あまり記憶にない。ただ、その棘(トゲ)だけは、今も心に刺さったままだ。

「せんせい… ありがと…」

教職人生を通し、一年間だけ小学校に勤務した。大学を卒業した春、小学校4年4組担任として、若さと勢いだけで駆け抜けたような教員一年目。ある理科のテストで、『氷がとけたら、なにになりますか。』という問いの解答欄に、『はるになります。』と記されていた。私は、思わず、大きな花マルを付けてしまった。答案を返却する際に、教科的な正解の説明と花マルの意味を彼に伝えた。彼が、はにかみながら、嬉しそうな表情で返した言葉が、その一言だった。

「たまちゃん、3組、いいクラスに育ってんなあ。あんなに仲間を応援するクラス、なかなかねーぞ。」

中学校教員として初めて担任した1年3組の体育祭終了後、今も敬愛する先輩から、ふと声を掛けられた。自分でも抑えられないくらい涙がこぼれた。生徒が褒められたことが、嬉しくて嬉しくて、たまらなかった。

乱暴な言葉を振り回す人は、自分では気づかないまま、人の心に痛みを与える。

言葉の優しさを知る人は、自分のことばに温もりが生まれる。

言葉の重みを知る人は、自分のことばに責任を持つ。

今の仲間と、今の教室で、ことばを交わすことができる時間の終わりが、近づいてきている。しかし、たとえ別れが来ようとも、交わしたことばに込められた想いは、あなたとあの人の心に残る。

良識と良心から昇華された一言を、紡ぐことができる人でありたい。